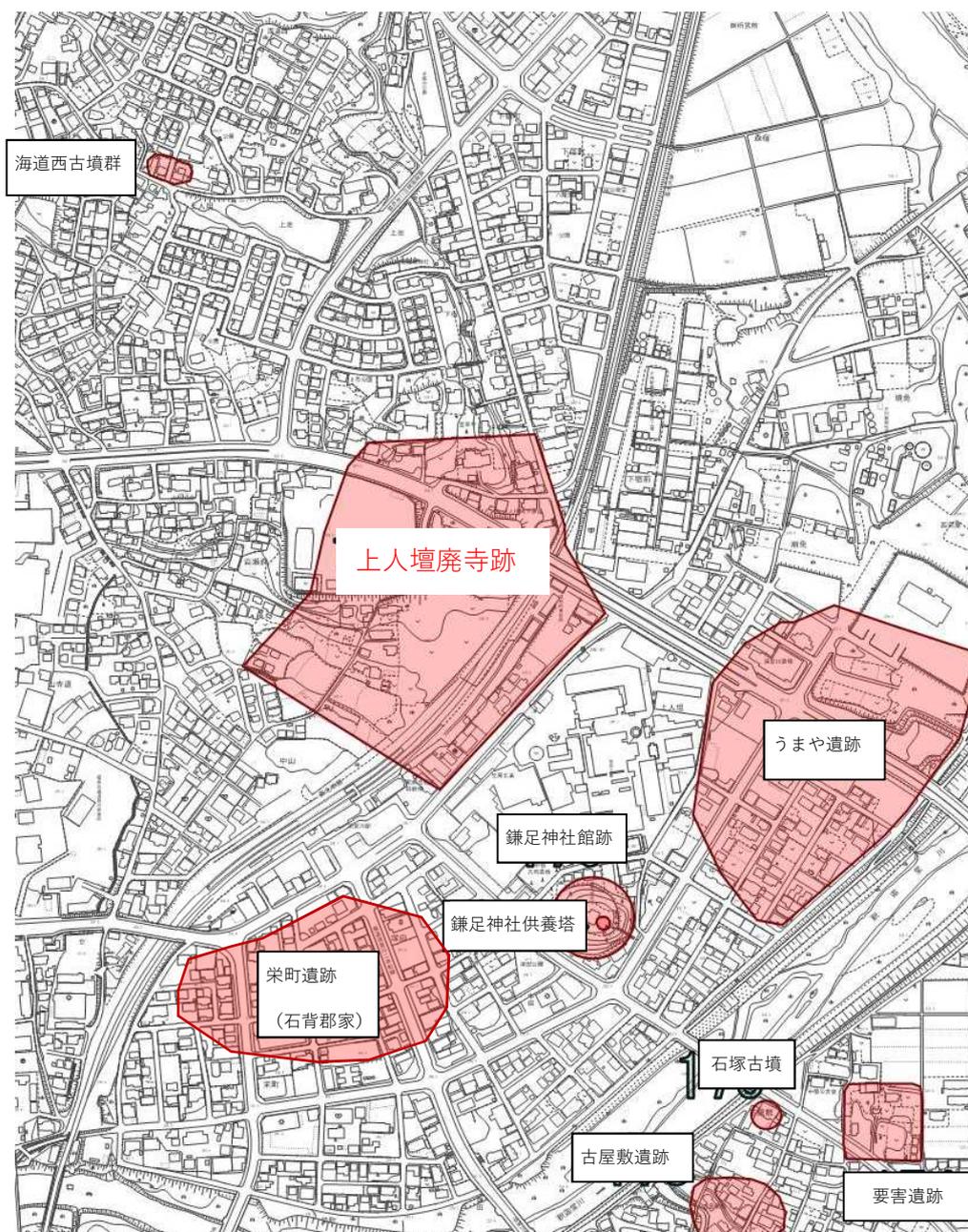


第3章 史跡の概要

■第1節 範囲

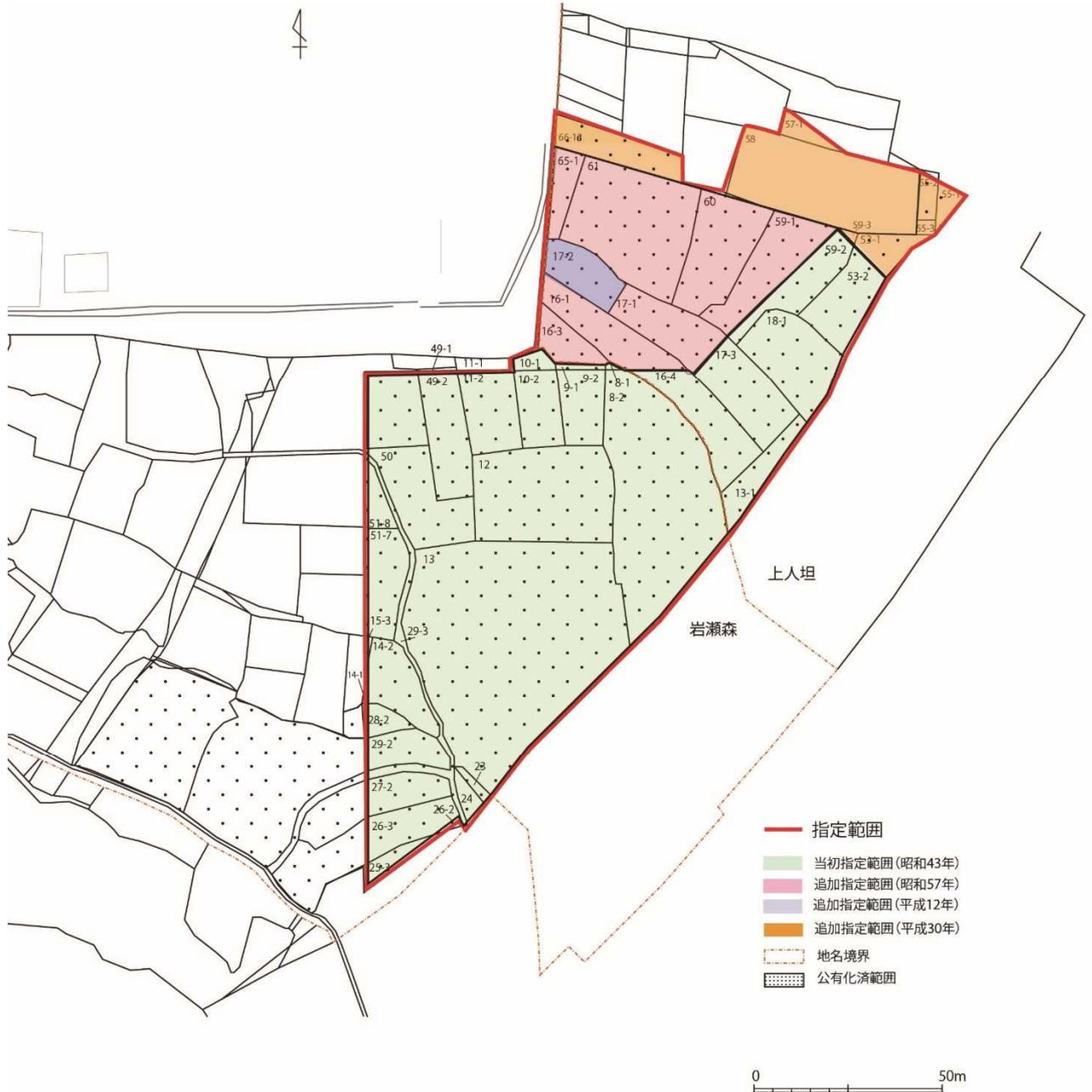
周知の埋蔵文化財包蔵地としての上人壇廃寺跡は、須賀川市上人坦及び岩瀬森にかけて東西 390m・南北 390m の範囲に所在します。



第7図 上人壇廃寺跡と周辺の埋蔵文化財包蔵地範囲

■第2節 史跡指定と公有化の状況

上人壇廃寺跡の周知の埋蔵文化財包蔵地範囲のうち、15,481.89㎡が史跡に指定され、そのうち14,421.89㎡が公有化されています。史跡を保護するうえでの緩衝地帯として、また、史跡を活用するうえで必要な関連施設の用地として、史跡周辺の公有化も推進しています。



第8図 上人壇廃寺跡 史跡と公有地範囲

第6表 上人壇廢寺跡 史跡指定・公有化狀況

地番	地目	面積 (㎡)	指定年月日	購入年月日	登録年月日	備考
岩瀬森 49-2	畑	360.43		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 47-2	宅地	298.24		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 50	畑	448.03		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 51-7	畑	270.64		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 51-8	宅地	80.29		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 14-2	畑	269.59		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 15-3	畑	3.15		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 28-2	畑	67.58		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 29-2	田	187.27		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 27-2	田	190.64		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 23	畑	22.00		S49.1.23	S49.3.12	S48年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 26-3	畑	219.28		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 25-3	畑	57.20		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 24	畑	57.30		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 13	畑	2769.10		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 8-2	畑	1528.78		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 9-2	畑	238.17		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 10-2	畑	233.90		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 11-2	畑	315.58		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 12	畑	920.30		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 13-1	畑	206.50		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 16-4	畑	392.43		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 17-3	畑	409.80		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 18-1	畑	466.60		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 53-2	山林	311.53		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 59-2	畑	276.23		S49.12.24	S50.2.1	S49年度購入 (国庫補助)
上人坦 17-1	畑	334.00		S58.12.12	S58.12.14	S58年度購入 (国庫補助)
上人坦 16-1	公園	336.00		S60.1.26	S60.2.8	S59年度購入 (国庫補助)
上人坦 61	畑	917.00		H8.10.31	H8.11.20	H8年度購入 (国庫補助)
上人坦 59-1	畑	400.00		H8.10.31	H8.11.20	H8年度購入 (国庫補助)
上人坦 60	畑	500.00		H8.10.31	H8.11.20	H8年度購入 (国庫補助)
上人坦 16-3	畑	156.00		H9.11.13	H9.12.1	H9年度購入 (国庫補助)
上人坦 65-1	畑	139.00		H9.11.13	H9.12.1	H9年度購入 (国庫補助)
上人坦 17-2	畑	261.00		H13.2.9	H13.3.2	H12年度購入 (国庫補助)
上人坦 66-16	宅地	266.00		R2.2.12	R2.3.6	R2年度購入 (国庫補助)
上人坦 53-1	山林	126.00		R2.1.27	R2.2.25	R2年度購入 (国庫補助)
上人坦 59-3	畑 (市街化)	8.40		R2.1.17	R2.2.25	R2年度購入 (国庫補助)
上人坦 58	山林	987.00				民有地
上人坦 57-1	山林	73.00				民有地
上人坦 55-1	雑種地	54.84		R2.1.27	R2.2.25	R2年度購入 (国庫補助)
上人坦 55-3	山林	19.00		R2.2.3	R2.2.25	R2年度購入 (国庫補助)
上人坦 55-2	山林	62.00		R2.1.27	R2.2.25	R2年度購入 (国庫補助)
岩瀬森 8-1	公園	6.22		S51.8.12	S54.6.12	昭和54年度購入 (市単費)
岩瀬森 9-1	公園	22.00		S51.8.12	S54.6.12	昭和54年度購入 (市単費)
岩瀬森 10-1	公園	51.00		S51.8.12	S54.6.12	昭和54年度購入 (市単費)
岩瀬森 29-2	道路	162.87		S51.8.12	S54.6.12	昭和54年度購入 (市単費)
史跡指定範囲		15481.89				
岩瀬森 14-1	公園	9.41		S51.10.22	S54.6.5	史跡範囲外
岩瀬森 11-1	畑	55.00		S51.10.22	S63.4.7	史跡範囲外
岩瀬森 49-1	畑	5.57		S51.10.22	S63.5.17	史跡範囲外
岩瀬森 30-1	田	930.00		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外
岩瀬森 29-1	田	1221.00		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外
岩瀬森 27-1	田	200.00		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外
岩瀬森 26-1	田	310.00		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外
岩瀬森 28-1	畑	52.00		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外
岩瀬森 25-1	畑	108.00		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外
岩瀬森 18-3	宅地	9.44		R4.11.28	R5.1.16	史跡範囲外

■第3節 上人壇廃寺跡の概要

(1) 自然的環境

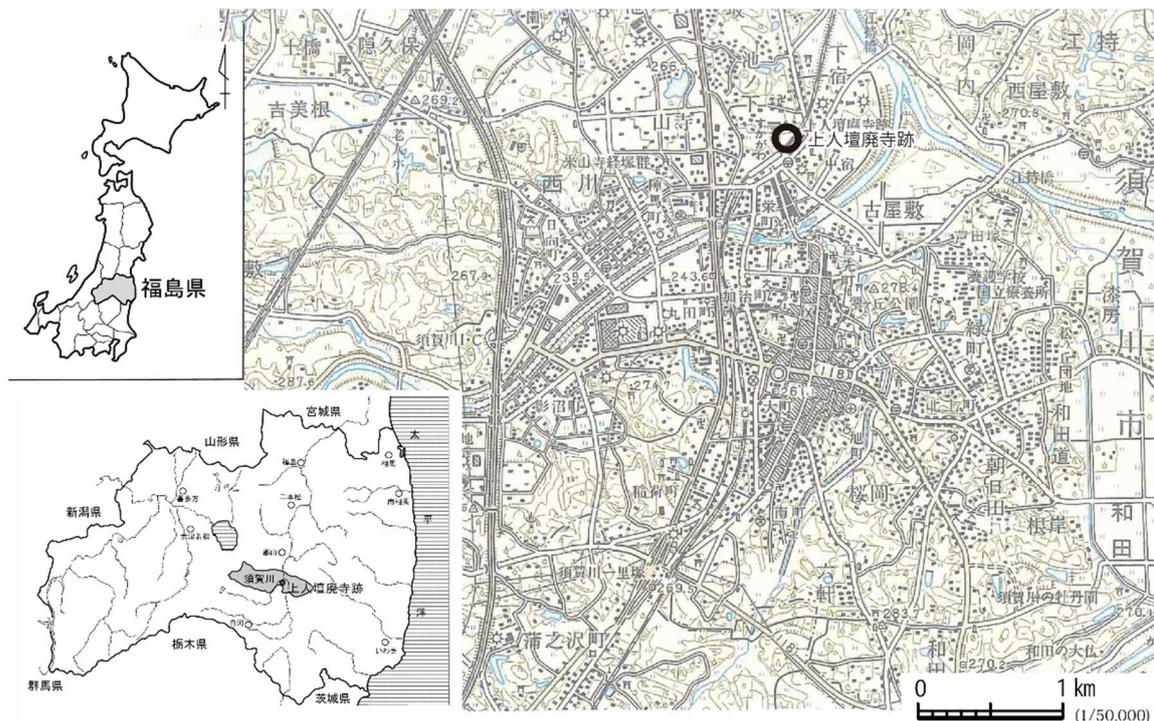
【地形・地質】

上人壇廃寺跡の所在する須賀川市は、福島県のほぼ中央に位置します。

福島県は南北方向に延びる奥羽山脈と阿武隈山地を境にして太平洋側から「浜通り地方」・「中通り地方」・「会津地方」に分けられますが、本市は「中通り地方」の中央やや南側に位置します。

市内の中央部を那須火山群（通称：那須連峰）に端を発する東北地方で有数の大河である阿武隈川が北に流れ、それに合流する釈迦堂川や滑川などの河川が東西方向に流れています。

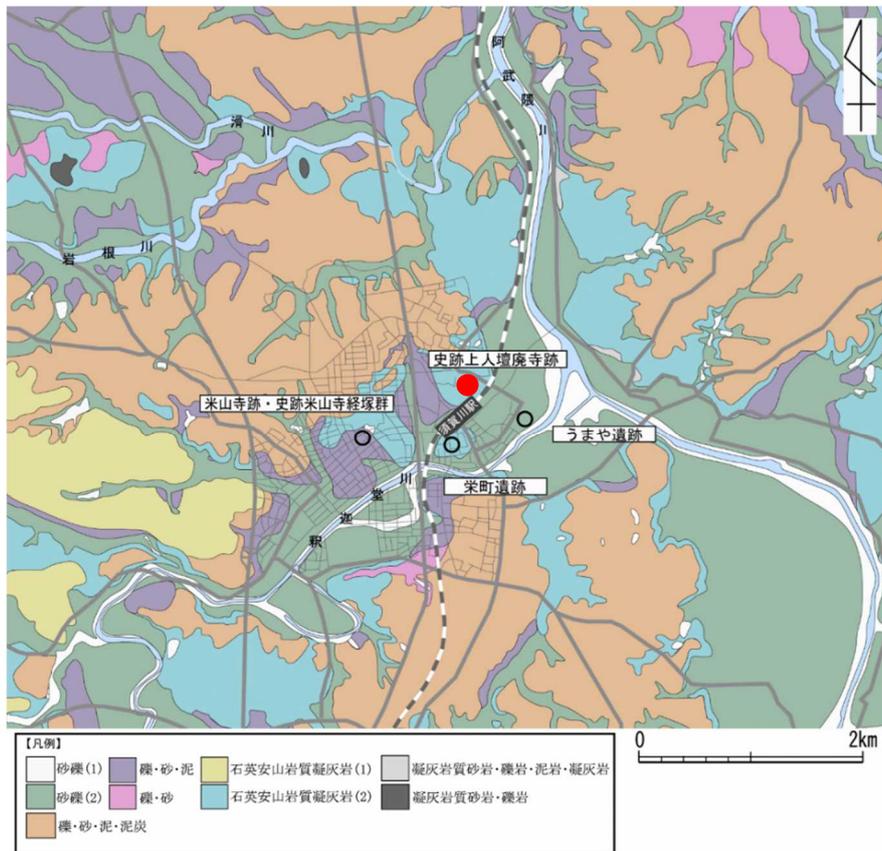
面積は 279.43 km²で、東西 37.9 km、南北 16.5 kmと東西方向に長く、地形・地質の特徴から、西部地区・中央地区・東部地区の3つに分けることができます。北は郡山市、南は岩瀬郡鏡石町、石川郡玉川村、岩瀬郡天栄村、東は石川郡平田村、西は郡山市の1市1町3村と隣接しています。



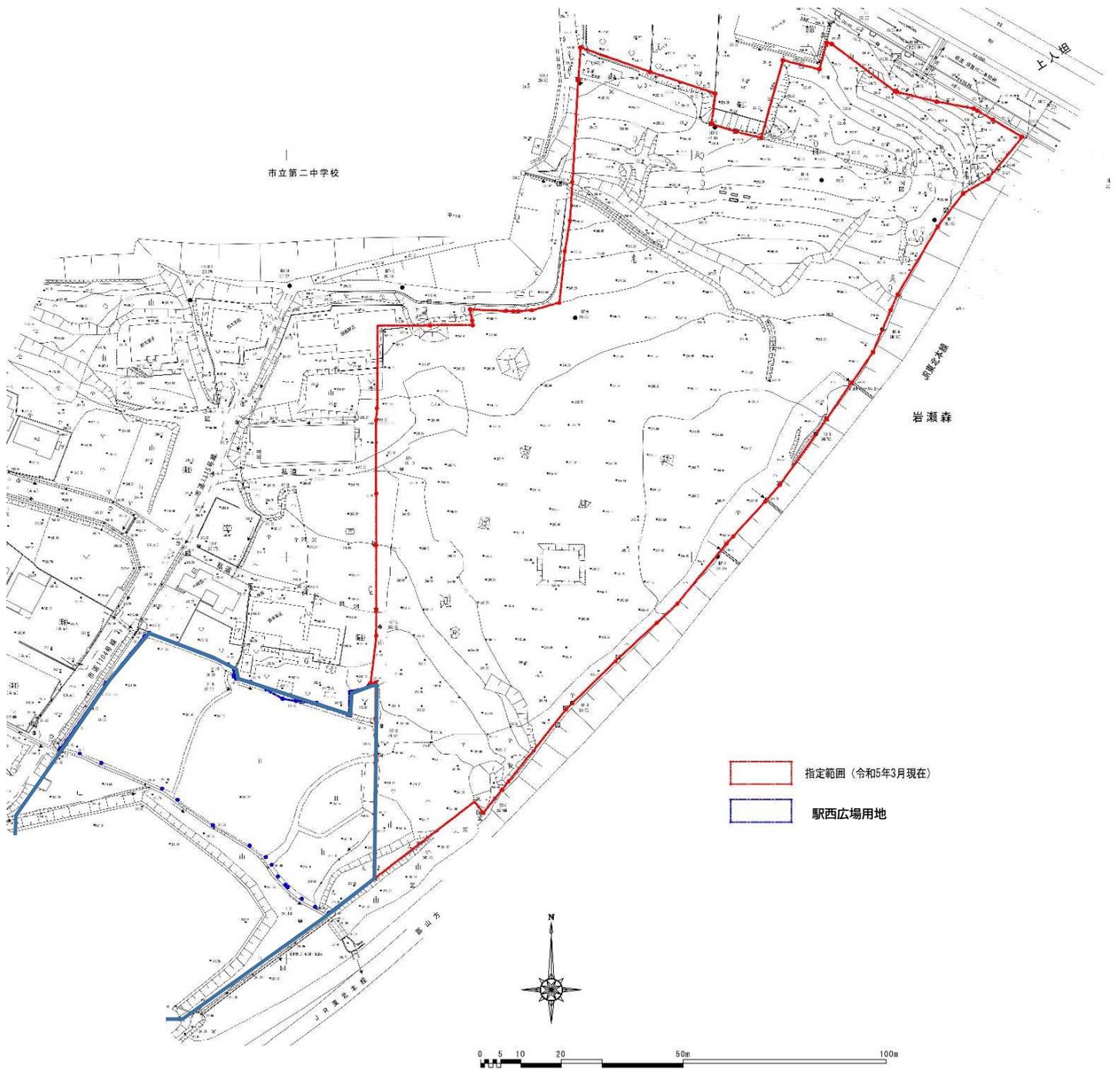
第9図 須賀川市と上人壇廃寺跡の位置図



第 10 図 須賀川市の地形区分図



第 11 図 上人壇廃寺跡周辺の地形区分図と表層地質図



第 12 図 史跡の現況平面図

上人壇廃寺跡は、奥羽山脈から東側に高度を減じながら樹枝状に延びた丘陵の東端部にあたり、丘陵南面の緩斜面上に立地します。特に東側や南側にひらけた地形となっています。

遺跡の南端と東側は東北本線の線路によって削平され急崖を呈します。南端部での線路上からの比高差は約 4m、同じく東側では比高差約 10m です。西側ではなだらかに丘陵裾部が継続します。北側丘陵尾根筋での標高は約 255m、遺跡中央部での標高は約 246m です。

上人壇廃寺跡の本来の入り口となる史跡南側（南門付近）から北を望むと、主要伽藍の範囲は北に向かってなだらかに高くなり、史跡指定範囲の北端は若干の急傾斜となって尾根筋へとつながります。指定範囲北端及び指定範囲外となる北側の樹林地は、上人壇廃寺跡と関連遺跡を一望できる位置にあり、その保全が重要な課題です。

遺跡から南側へ直線距離で約 600m には阿武隈川の支流釈迦堂川が東流し、同じく東側へ直線距離で約 800m には釈迦堂川と阿武隈川の合流点が位置しています。

地質的には、基盤が古期花崗閃緑岩で、その上部に地元で江持石と呼ばれる石英安山岩質凝灰岩とその風化層が堆積しています。この石英安山岩質凝灰岩上の地盤的に安定した場所に上人壇廃寺跡や栄町遺跡、米山寺跡などが立地しています。

【気候】

本市は阿武隈高地や奥羽山脈に囲まれた盆地状の地形を呈します。年平均気温は約 13℃、年間降水量は 1,100～1300 mm程度で、少降水量地域に位置します。降水量のピークは 7 月にあり、少降水量地域に特徴的な変動で中通り・浜通り地方のほとんどの地域と同様の傾向ですが、特に冬季において、中央部から東部地域にかけての降雪量は少なく、会津地方に似た気候の特徴を持つ西部地域の降雪量が多いのが特徴です。

風は、気圧配置や地形による地区の特徴はありますが、夏季は南東・南西、冬季は北西の季節風が吹き、年平均風速は 2～3m/s と中通りの他の地域と同様です。

気象概況		気温			降水量		平均風速	平均湿度	天気日数			
西暦	和暦	平均	最高	最低	年間	最大日量	(m/s)	(%)	晴	曇	雨	雪
		(℃)	(℃)	(℃)	(mm)	(mm)			(日)	(日)	(日)	(日)
2011年	平成23年	12.6	36.1	-5.5	1,037.0	200.5	2.2	68.8	190	143	24	8
2017年	平成29年	12.4	34.9	-6.4	760.5	72.5	2.1	66.0	179	156	21	8
2018年	平成30年	13.3	37.0	-8.8	794.5	62.0	2.1	63.4	218	125	18	4
2019年	令和元年	13.3	36.9	-5.4	1,339.0	214.5	2.2	62.9	206	125	32	2
2020年	令和2年	13.4	37.2	-6.5	880.0	52.0	2.1	69.9	173	168	22	3
2021年	令和3年	13.1	37.0	-8.9	1,149.5	54.5	2.1	71.2	174	163	23	5

資料：須賀川市統計データ

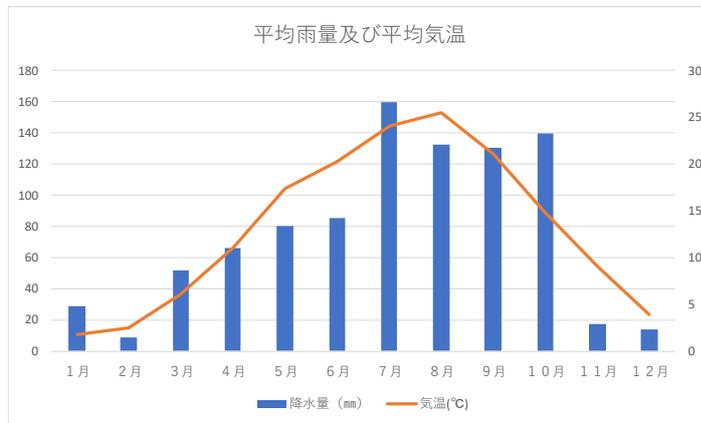
月別総降水量		単位：mm											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)
2011年	平成23年	8.0	66.0	22.0	91.0	69.0	55.5	162.5	140.0	294.0	79.5	38.0	11.5
2017年	平成29年	6.5	10.5	32.5	28.0	42.0	46.0	227.5	80.5	75.0	180.0	13.5	18.5
2018年	平成30年	31.5	0.5	101.0	71.5	105.0	23.0	102.0	141.5	141.5	53.5	10.0	13.5
2019年	令和元年	6.0	7.5	58.5	59.5	143.5	217.0	169.5	112.0	138.5	379.5	28.5	19.0
2020年	令和2年	66.5	11.5	46.5	98.5	62.0	73.5	275.5	83.0	90.5	64.0	8.0	0.5
2021年	令和3年	6.5	37.0	116.5	68.5	73.0	94.0	194.5	216.5	112.0	112.5	42.5	76.0

資料：須賀川市統計データ

月別平均気温		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
西暦	和暦	(°C)											
2011年	平成23年	-0.2	2.4	3.2	9.8	16.0	21.0	25.0	25.0	21.9	14.8	9.9	2.6
2017年	平成29年	1.4	1.9	4.2	10.9	17.7	19.2	25.2	23.7	20.1	14.1	8.0	2.2
2018年	平成30年	0.6	0.8	6.7	13.0	16.9	20.7	26.8	25.2	20.1	15.2	10.0	4.0
2019年	令和元年	1.4	2.9	6.2	9.9	17.6	19.4	22.5	26.5	22.0	16.0	9.7	4.9
2020年	令和2年	3.6	3.8	6.6	9.5	17.1	21.6	22.5	27.0	21.8	14.2	10.0	3.5
2021年	令和3年	0.6	3.1	8.4	11.1	16.9	20.9	24.2	24.9	19.6	15.1	9.2	3.6

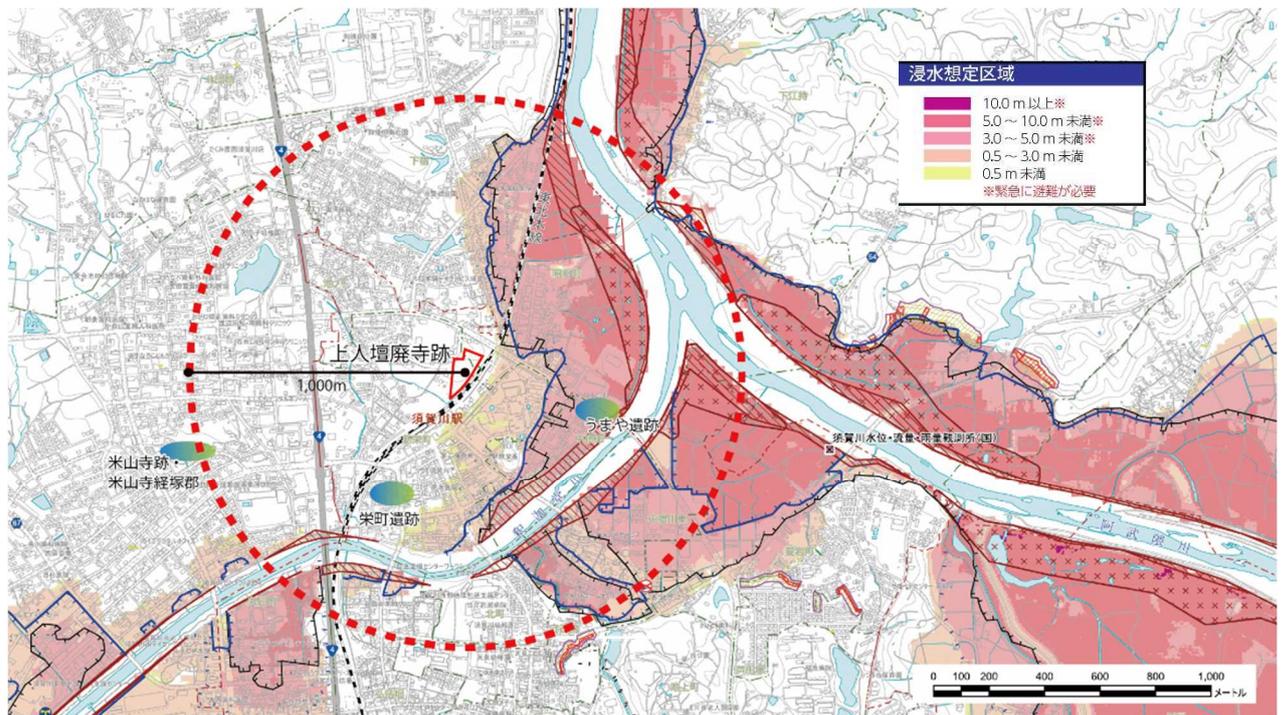
資料：須賀川市統計データ

平成28年～令和2年の平均雨量・気温		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量 (mm)		29.1	8.5	51.6	65.7	80.5	85.2	160.2	132.5	130.6	139.6	17.1	13.7
気温(°C)		1.8	2.44	6	11.04	17.36	20.24	24.04	25.52	21.12	14.94	9.04	3.88



第 13 図 須賀川市の気温と降水量

上人壇廃寺跡が所在する市中央部は、夏に降雨が多く、冬に降雪が少ない太平洋型の温暖な気候ですが、近年は温暖化により夏から秋にかけての集中豪雨や長雨が増加しています。1時間に50mmをこえる激しい雨の年間発生回数は、ここ10年間の平均年間発生回数が30～40年前と比べて1.4倍の327回となっており、阿武隈川と釈迦堂川流域には大規模な水害が頻発しています。上人壇廃寺跡は浸水想定区域に含まれていませんが、史跡の南端にかけて周辺の雨水が集中する地形となっています。また、史跡周辺に位置する新栄町と中宿区には、10m未満の浸水想定区域となっている箇所があります。

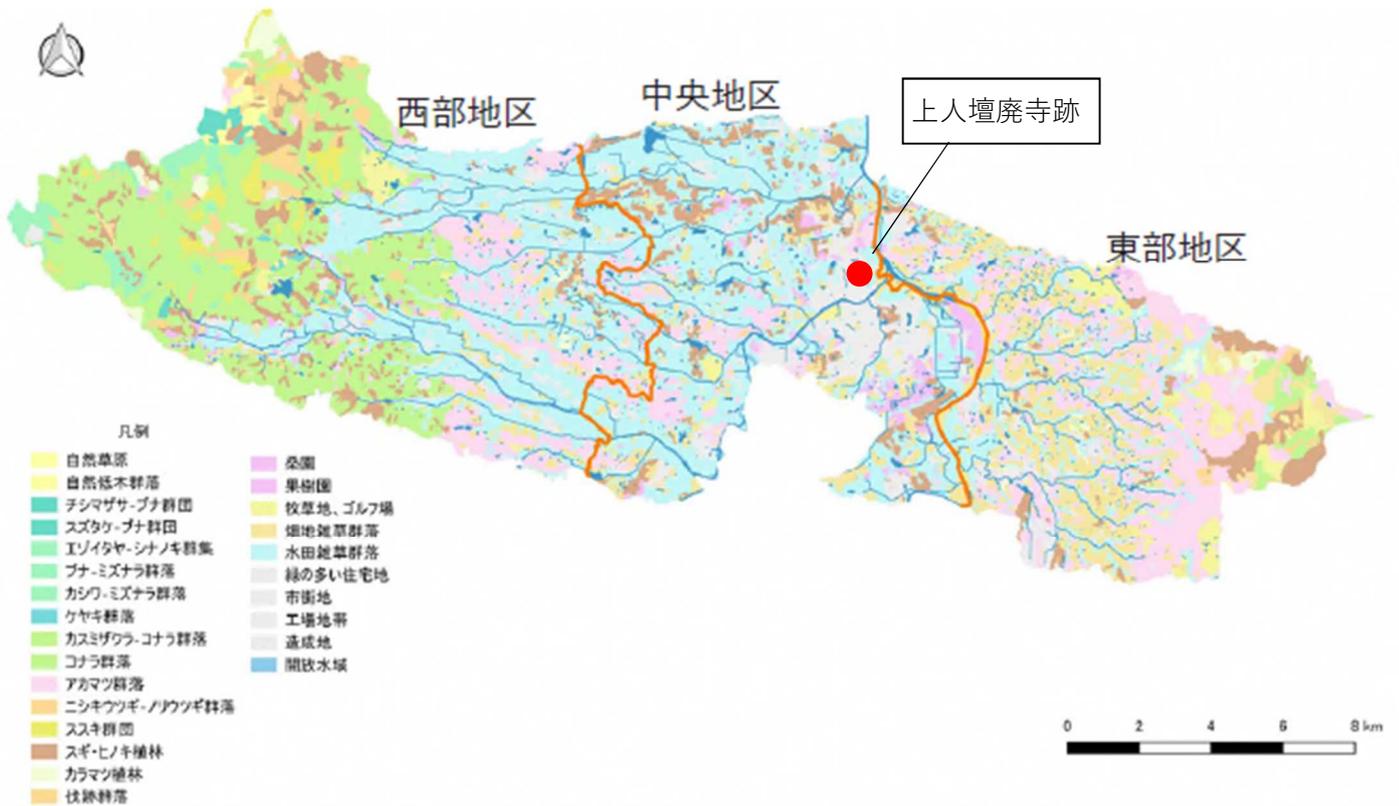


第 14 図 史跡周辺の浸水区域

【植物】

本市は温帯（年平均気温が6～14℃：須賀川市は約13℃）の落葉広葉樹林帯に属します。市域北部中央の阿武隈川は標高が230m、市西部奥羽山脈の八幡岳は標高1,102mと地形も複雑で、多様な自然環境が存在します。

植生を概観すると、市街地周辺の平地・低地には耕作地、水田雑草群落、畑地雑草群落が広がっています。東部地区の丘陵地にはアカマツ群落やクリ・コナラ群落など、西部の丘陵地には常緑針葉樹林を含むコナラ群落などが広がり、奥羽山脈にかけては主にカスミザクラコナラ群落、ブナーミズナラ群落が分布します。



第15図 須賀川市の植生図

【史跡指定範囲の植生】

上人壇廃寺跡の史跡指定範囲はほとんどが雑草地です。『古事記』や『万葉集』において「ツバナ」と呼ばれているチガヤを中心に、ヤブカンゾウ、ジャノヒゲ（リュウノヒゲ）等の在来植物が多く自生しています。史跡北側にはコナラ・クリ群集の高木による良好な雑木林が見られ、樹林地の鳥類、平地・斜面の草地の昆虫類など一体となり、生態系を形成しています。

■史跡内に自生する主な植物

・在来種

チガヤ ヤブカンゾウ ギシギシ ジャノヒゲ アズマネザサ サワラ ソメイヨシノ 他



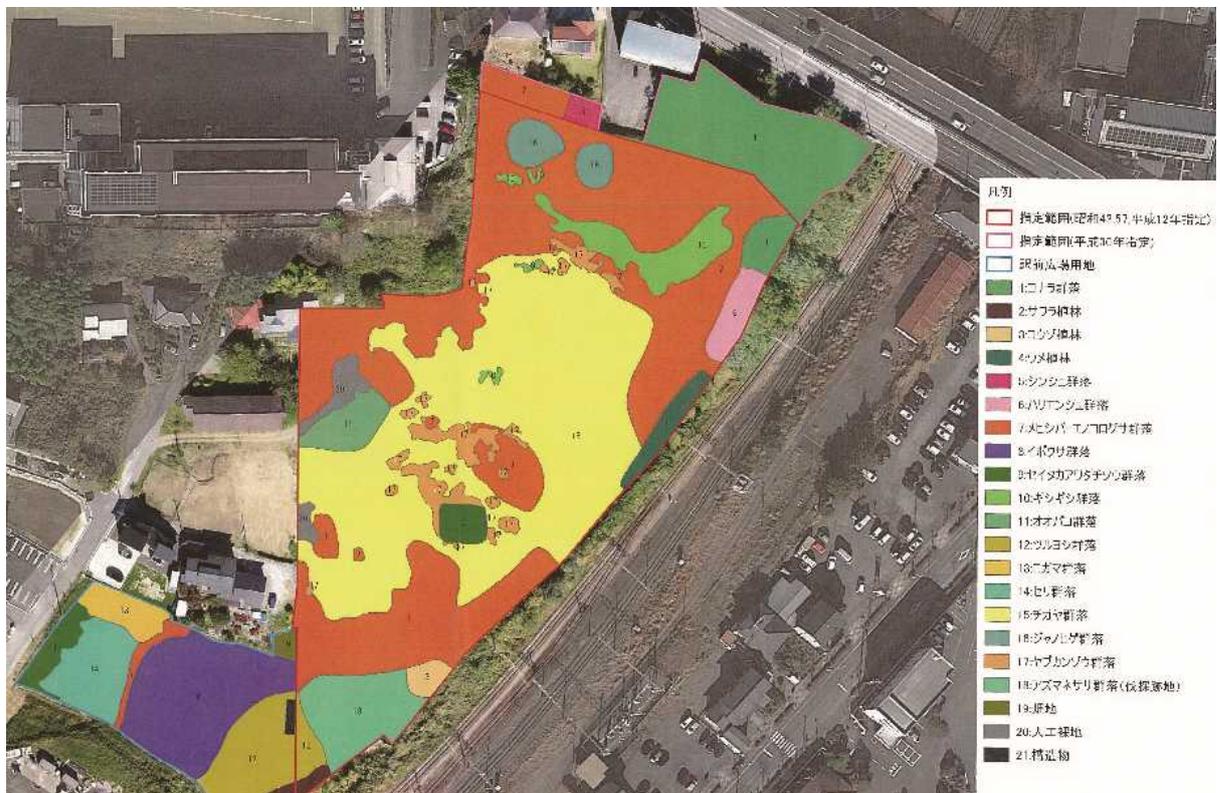
オオバ・ジャノヒゲ・シダ群落



チガヤ・ヤブカンゾウ群落

・外来種等

メヒシバ セイタカアワダチソウ 他



第 16 図 史跡指定範囲内の植生

【史跡と周辺の古環境】

上人壇廃寺跡隣接地の試掘調査で検出した自然流路において、奈良時代の遺物を含む堆積土と流路の最下層から採取した試料の花粉分析を行った結果、針葉樹であるモミ属・マツ属・スギ属、落葉広葉樹であるハンノキ属・コナラ亜属を中心とする木本花粉と、イネ科・カヤツリグサ科等の草本花粉等が検出されています。植物珪酸体分析ではタケ亜科・ススキ属・オモダカ属・ヨシ属等が確認されています。

ハンノキ属・オモダカ属・ヨシ属などからは低湿地または水湿地が存在した可能性が考えられます。またコナラ亜属は冷温帯性落葉広葉樹林の構成要素であること、イネ属とオモダカ属が確認できることから稲作が行われていた可能性や水田が存在した可能性も指摘できます。



表2. 花粉分析結果

種 類	2T	
	試料①	試料②
木本花粉		
モミ属	26	11
ツガ属	2	5
トウヒ属	1	2
マツ属複維管束亜属	5	4
マツ属(不明)	18	36
スギ属	47	23
イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科	1	-
ヤマモモ属	1	-
サワグルミ属	5	6
クルミ属	2	-
クマシデ属—アサダ属	12	1
カバノキ属	2	2
ハンノキ属	2	91
ブナ属	21	8
コナラ属コナラ亜属	35	50
コナラ属アカガシ亜属	15	7
クリ属	4	-
ニレ属—ケヤキ属	12	8
モチノキ属	-	1
カエデ属	1	-
ウコギ科	1	-
草本花粉		
ガマ属	-	1
オモダカ属	7	-
イネ科	100	5
カヤツリグサ科	21	5
ミズアオイ属	8	-
サナエタデ節—ウナギツカミ節	4	1
アカザ科	1	-
カラマツソウ属	-	1
マメ科	-	1
ツリフネソウ属	1	-
オオバコ属	1	-
ツルニンジン属	1	-
ヨモギ属	18	6
キク亜科	1	14
タンポポ亜科	3	1
不明花粉		
不明花粉	12	5
シダ類孢子		
シダ類孢子	32	293
合 計		
木本花粉	213	255
草本花粉	166	35
不明花粉	12	5
シダ類孢子	32	293
合計(不明を除く)	411	583

表3. 植物珪酸体分析結果

分類群	2T (個/g)	
	試料①	試料②
イネ科葉部短細胞珪酸体		
イネ属	<100	-
メダケ属	200	700
タケ亜科	900	2,100
ヨシ属	<100	200
ススキ属	200	300
イチゴツナギ亜科	<100	200
不明	1,300	1,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
イネ属	200	100
メダケ属	200	1,100
タケ亜科	1,100	1,800
ヨシ属	<100	200
ススキ属	<100	-
不明	600	1,100
合 計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	2,800	4,700
イネ科葉身機動細胞珪酸体	2,300	4,400
植物珪酸体含量	5,100	9,100
イネ科起源(その他)		
棒状珪酸体	*	**
毛細胞起源	*	*

1) 含量は、10の位で丸めている(100単位にする)。

2) 合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。

3) <100: 100個/g未満。

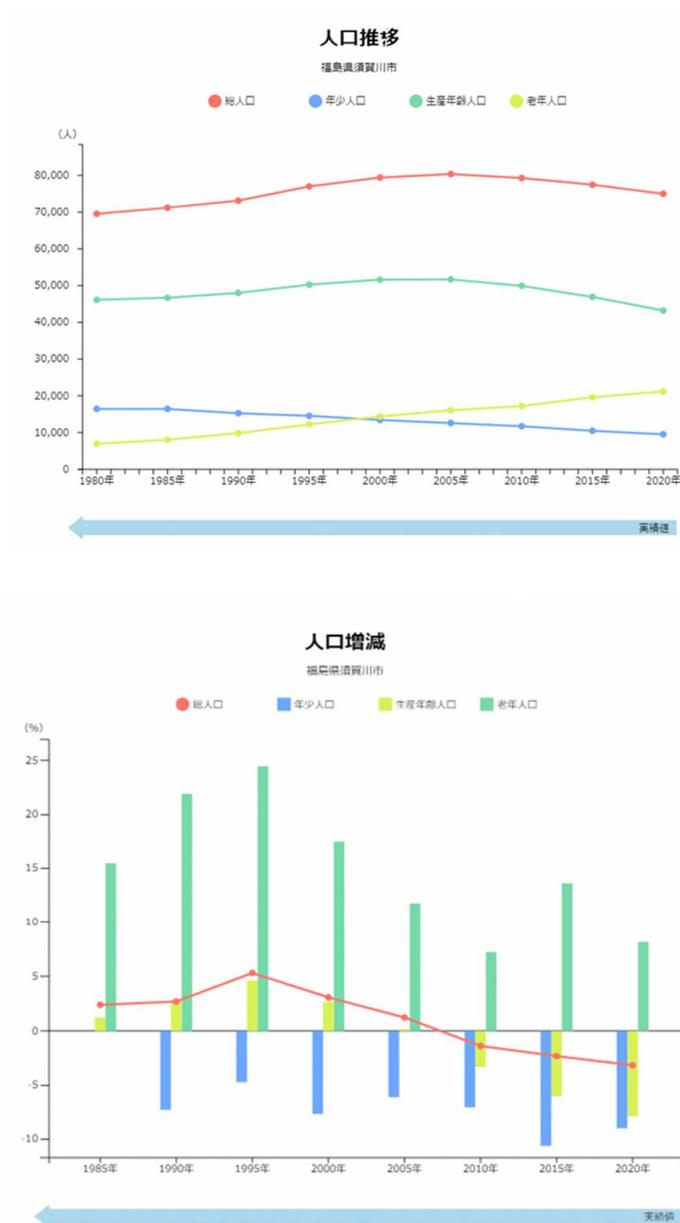
4) -: 未検出、*: 含有、**: 多い。

第 17 図 史跡周辺の古環境分析結果

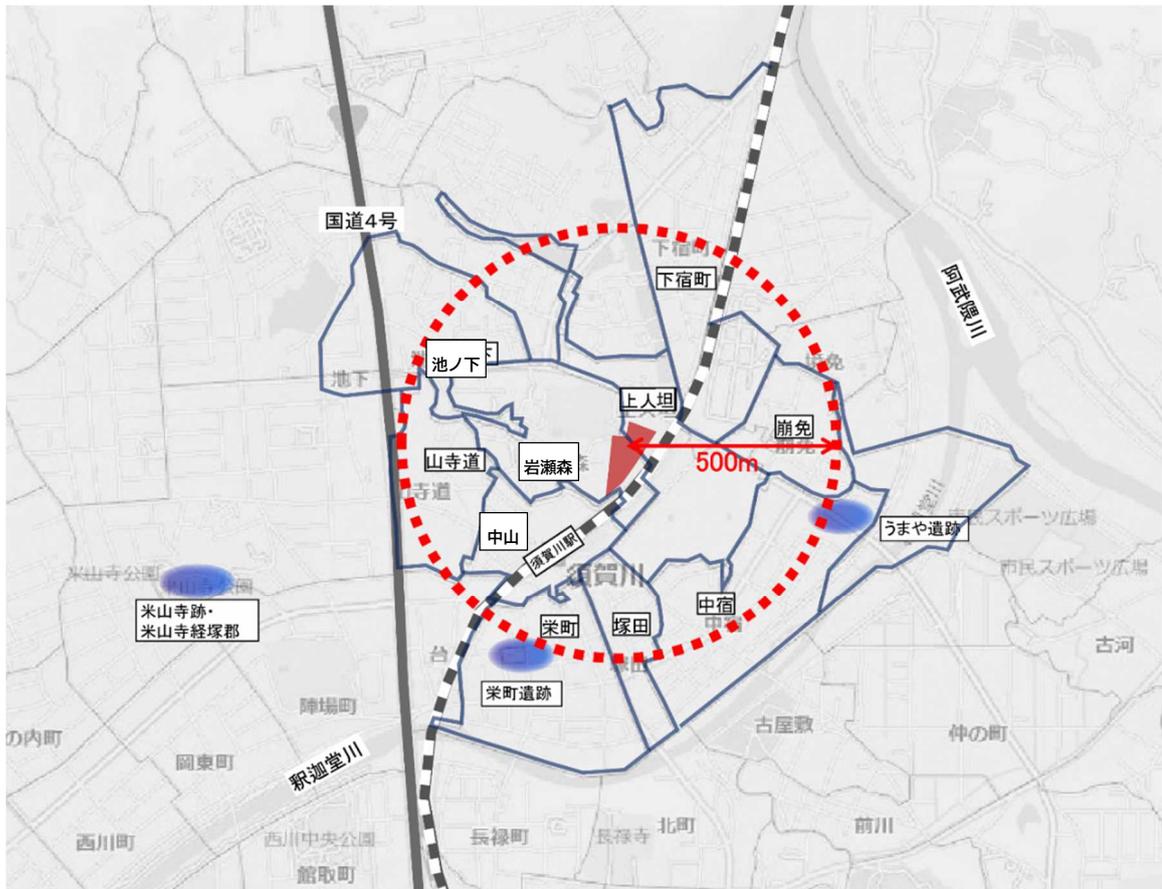
(2) 社会的環境

【市の人口】

市の人口は令和 2(2020)年の国勢調査によると同年 10 月 1 日現在 74,992 人（男性：36,781 人、女性：38,211 人）、世帯数は 27,127 世帯となっています。人口の推移は平成 17(2005)年の 8 万人をピークに減少傾向に転じてはいるものの、福島県及び近隣市に比べ、減少は緩やかに進んでいます。また、年少人口（0～14 歳）と生産年齢人口（15～64 歳）は減少、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、少子高齢化の加速が進んでいます。一方、世帯の少人数化が進み、世帯数は増加しています。



第 18 図 須賀川市の人口推移（資料：国勢調査）



(単位：人)

上人壇廃寺跡から概ね500m圏内の字名		岩瀬森	崩免	栄町	上入壇	塚田	中山	中宿・中曾根	山寺道	下宿町	池ノ下町	合計	須賀川市計
年別人口	H27	322	212	502	160	207	136	568	224	677	355	3,363	78,033
	H29	282	71	525	147	230	111	630	204	967	355	3,522	77,226
	H31・R1	380	68	539	154	241	114	596	198	652	348	3,290	76,400
	R3	477	50	533	171	209	122	575	192	678	352	3,359	75,142
人口増減	H27→R3	155	-162	31	11	2	-14	7	-32	1	-3	-4	-2891
人口増減割合	H27→R3	48.1%	-76.4%	6.2%	6.9%	1.0%	-10.3%	1.2%	-14.3%	0.1%	-0.8%	-0.1%	-3.7%

資料：住民基本台帳（須賀川市統計データ）

第19図 上人壇廃寺跡から概ね500m圏内の字別人口動態

史跡が徒歩圏内となる地域（史跡を中心に半径500m以内）の人口は、平成27年から令和3年にかけて約3,300人で推移しています。地域別ではわずかに減となっている地域が多い一方、岩瀬森地区では4割以上増加しています。市全体の人口は減少傾向にありますが、史跡の近隣地域では増加する傾向がみとれます。

【交通】

市の中央部に東北縦貫自動車道、国道4号、東北本線、東北新幹線、東部に水郡線が通り、道路・鉄道ともに首都圏や仙台圏へのアクセスが容易です。また、会津地方から茨城県への主要幹線である国道118号は東西への主要道路であり、市の南部でこれに接続する県道古殿須賀川線などは、いわき市など太平洋側に至るアクセス道です。

加えて、県内で唯一の空港であり平成5年に開港した福島空港が市の東部に位置しており、陸路・空路ともに県内でも交通の利便性に優れた地域です。



第 20 図 須賀川市へのアクセス

【産業】

米、野菜、果実を中心とした農業を基幹産業としており、きゅうり、トマト、なす、さやいんげんなどを中心に多くの品目が栽培される夏秋野菜産地となっています。特にきゅうりは「岩瀬きゅうり」として全国的に有名で、毎年7月にはきゅうりを奉納する「きゅうり天王祭」が行われています。

工業は電気・鉄鋼・化学・生産用機械器具製造が中心です。

伝統産業は、端午の節句に男子の成長を祝う「須賀川絵のぼり」や、江持石を用いた石材加工などがあります。

観光は、牡丹園としては、日本唯一の国指定名勝である「須賀川の牡丹園」、約1万発の花火が夜空を彩る「須賀川市釈迦堂川花火大会」、つつじ約3,000株を誇る「大桑原つつじ園」、市の誇る伝統行事「松明あかし」等が挙げられます。

また、特撮の神様と称される円谷英二監督の出身地であり、ウルトラマンの故郷「M78 星雲 光の国」と姉妹都市を結び、仮想都市「すかがわ市 M78 光の町」をつくるなど、ウルトラマン関連事業を展開しています。

単位(人)

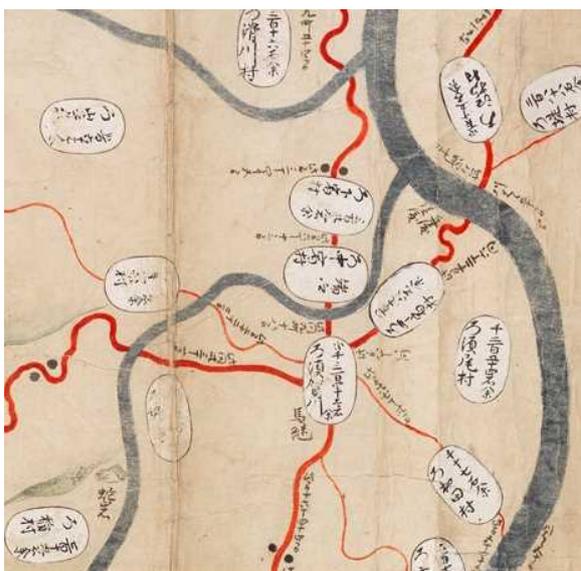
施設名	2021	2020	2019	2018	2017
藤沼湖自然公園	66,098	70,652	79,508	72,059	—
須賀川市牡丹園	29,326	5,984	44,548	43,570	43,225
ムシテックワールド	50,173	38,316	73,695	68,439	69,474
ローレルバレイカントリークラブ	36,146	35,356	35,135	36,146	36,222
東郡郡山カントリー倶楽部	27,853	25,323	27,269	27,592	26,083
はたけんぼ	559,600	528,700	547,000	578,600	572,300
松明あかし	—	—	130,000	140,000	130,000
長沼まつり	—	—	30,000	30,000	30,000
須賀川市釈迦堂川花火大会	—	—	300,000	300,000	300,000
宇津峰カントリークラブ	60,392	55,860	43,775	37,579	39,953
円谷英二ミュージアム	31,397	28,193	70,686	—	—
風流のはじめ館	41,469	5,982	—	—	—
特撮アーカイブセンター	24,080	13,646	—	—	—
須賀川市立博物館	—	5,997	8,948	9,496	10,232
須賀川市歴史民俗資料館	—	596	1,217	1,410	1,308

資料:福島県観光入込状況(年度) 須賀川市統計データ

第 21 図 主な観光の人数

【行政区分】

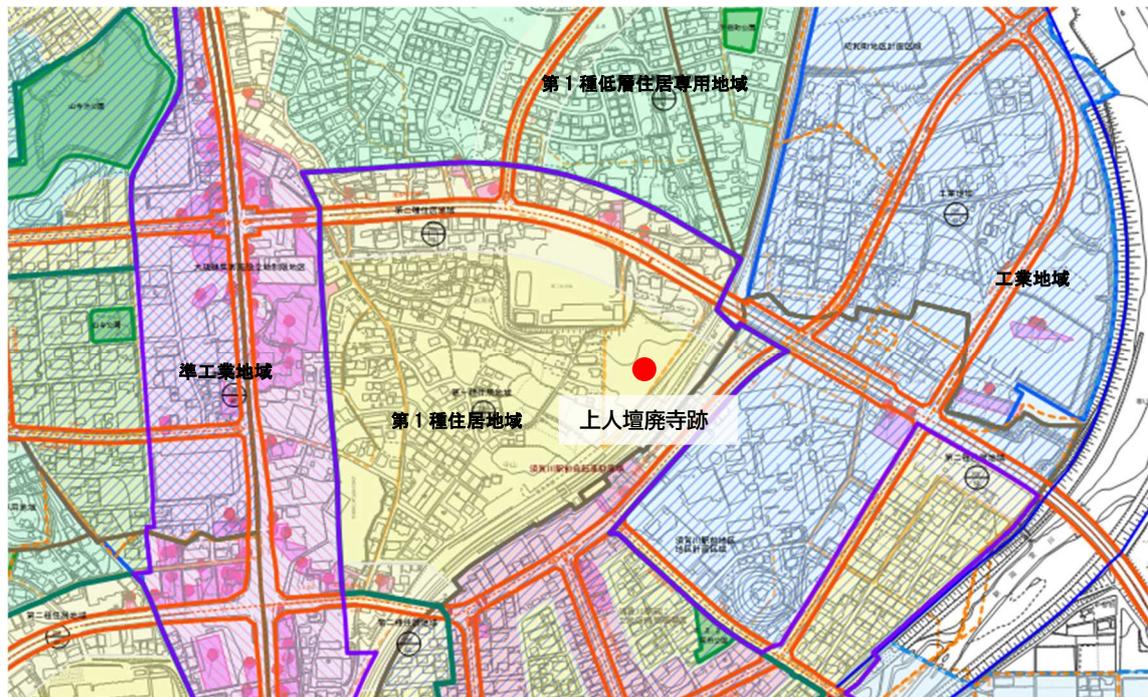
上人壇廃寺跡は、奈良時代の石背郡に所在し、江戸時代には越後高田藩領の一部として中宿村に属しています。明治9年に成立した須賀川村が、22年の町村制施行により森宿村の一部を合併し、上人壇廃寺跡と周辺は須賀川町に所属することとなりました。その後、昭和29年に須賀川町と隣接する4箇村が合併して須賀川市が誕生し、現在上人壇廃寺跡は須賀川市のほぼ中央部である須賀川市上人坦・岩瀬森地内にあります。



第 22 図 江戸時代の中宿村の位置 (『白河・石川・岩瀬・田村・安積・安達六郡絵図』) と上人壇廃寺跡周辺土地利用状況 (昭和 20 年代)

【周辺土地利用】

現在、史跡周辺はほぼ宅地で、一部が田畑・工場として利用されています。



第 23 図 史跡周辺の用途地域（都市計画）

現在、上人壇廃寺跡のある須賀川市岩瀬森及び上人垣は、明治 20 年に設置された東北本線須賀川駅の西側に位置しています。江戸時代の須賀川は、現在の中心市街地の奥州街道沿いとなる本町・中町などが、白河領の最北端に位置する商業の中心地でしたが、明治時代の鉄道開通で現在の場所に JR 須賀川駅がおかれると、駅が物資集散の中心となり、須賀川町に面する駅東側の開発が進んだ一方、駅の西側は従来どおり耕地としての利用が続けられていました。

また、上人壇廃寺跡の北側には昭和 23 年に須賀川町立第二中学校がおかれ、このころから徐々に駅西地区に宅地が増加しますが、JR 須賀川駅に西口がないこともあり、道路の整備や経済的な活動は活発ではありませんでした。また、令和元年度から始まった駅西地区の整備事業により、鉄道で分断されていた駅東側と西側に人的・経済的な交流が増えることが期待されています。

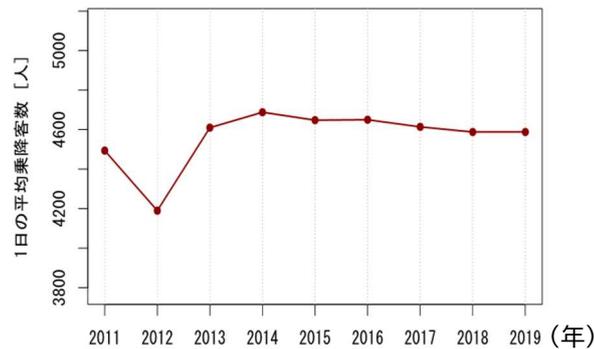
【関連する施設】

史跡南側に接している JR 須賀川駅、北側に接している須賀川市立第二中学校のほか、学区としては須賀川市立第二小学校、阿武隈小学校、柏城小学校、須賀川市立博物館が関連します。

JR 須賀川駅

JR 須賀川駅は史跡の南側に接して所在し、通勤・通学客を中心に一日平均 4,600 人が乗降します。また、商用や観光・季節ごとの行事で訪れる市外からの観光客の乗降も盛んです。東北本線は上下線とも平均約 1 時間の間隔で運行されています。

JR 須賀川駅からは史跡の全景を望むことができ、史跡からも駅や電車、利用者の動きをみることができます。また、須賀川駅西地区都市構造再編集中支援事業が進行しており、現在は新駅舎の建設と旧駅舎の改修、駅東口から西口への連絡通路と駅西ロータリー・広場の設置、道路の新設・拡幅などが計画されています。



第 24 図 JR 須賀川駅の 1 日の平均乗降者数推移



第 25 図 須賀川駅西地区都市構造再編集中支援事業平面図

須賀川市立第二中学校

第二中学校は市の中心部に位置する中学校の一つです。第二小学校・阿武隈小学校・柏城小学校の3つの小学校区からなる県内でも有数の大規模校で、全校生徒約640人、各学年平均6クラスを有します。

校地が史跡北側の高台にあり、校舎から史跡と市街地を一望にすることができます。



第26図 史跡からみた第二中学校（南から）

須賀川市立博物館

昭和45年に県内で最も早く設立された公立博物館です。史跡から南へ約1.8km、徒歩20分の位置に所在します。約90,000点の収蔵資料を有し、上人壇廃寺跡の主な出土資料を常設展示しています。近年の年間来館者数は平均8,000人です。

年3~4回の企画展を開催し、須賀川市内の重要遺跡である上人壇廃寺跡についても企画展・各種講演会や体験講座等を実施しています。



第 27 図 関連する施設の位置図

【法規制等】

■都市計画法

上人壇廃寺跡の所在する市中心部は市街化区域に区分されています。

用途地域としては、上人壇廃寺跡の史跡指定範囲周辺は第一種住居地域となり、建ぺい率 60%、容積率 200%までの建築物と、3,000 m²までの店舗等の建築が可能です。

■鉄道営業法（鉄道に関する技術上の基準を定める省令）

上人壇廃寺跡は東北本線複線化の際に遺構の南東部が破壊されており、現在の史跡範囲は JR 東日本の用地に接しています。このため、史跡範囲の整備に際しては「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」第 3 節第 20 条（建築限界）の規定に配慮する必要があります。また、線路に近接して列車運転に影響を及ぼすおそれのある土木工事については事前協議を要します。

■景観法（福島県景観計画）

須賀川市は福島県景観計画における景観計画区域となっており、景観法第 16 条第 1 項第 1 号及び 2 号により高さ 13m 超または建築面積 1,000 m²超の建築物新築や高さ 5m を超える擁壁やさくの新設等に届け出が必要です。

■文化財保護法

上人壇廃寺跡は昭和 43（1968）年に国の史跡に指定され、その管理や復旧等については文化財保護法第 7 章に定められています。特に第 125 条では「現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない」とし、史跡の現状変更等は厳しく制限されています。一方、第 115 条では「指定を受けた地方公共団体その他の法人は、文部科学省令に定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界標、囲いその他の施設を設置しなければならない」とされており、遺構の保存活用、管理や周知について管理者が責任をもって取り組むべき旨が定められています。